

internet

新ホームページ OPEN!

4月1日、ミルクホールの新しいホームページがオープンします。去年の暮れ、難産の末に開設したミルクホールの読み物を中心に構成したホームページに変わり、写真や情報を盛り込んだページに生まれ変わります。

ミルクホールのカフェのメニューのページ・アンティークの情報ページ・ジャズのページ・イベント情報のページに加え、ミルクホールに所縁のあるアーティストの方々のページを設けました。今回ご紹介するのは、音楽の早川義夫さん、画家の合田佐和子さん・ノブヨさん母子、それに、ミルクホールの絵を描いて下さった、ささめやゆきさんの情報、作品、著書など展示しています。

インターネットに詳しい方へお願いがあります。リンクに関する耳寄りな情報を教えてください!

<http://www.milkhall.co.jp/>

通信

珍品って何?

珍しいもの、希少価値のあるもの。出生の不明な物。誰か名のある人がわけあって残したもの。権威ある人が珍品と認定したもの。時代背景が独特なもの。奇人が作った(あるいは残した)もの etc 摩訶不思議な物。骨董好きがまたは、骨董商が何が楽しくてやっているかといえ、ほとんど100%間違いなくこれです。骨董品と関わっていないと、いったいこれは何だろう? という物に必ず出会います。あらゆるジャンルに不思議な物はあります。優れた贗作も珍品と言えるでしょう。この楽しみは無価値な物から、国宝級、天文学的価値の物まで等しくあります。つまり珍品は、道端にも蔵にも博物館にもあってその楽しみは皆同じなのです。ですが、この楽しみは、尽きる事がなく、時間もお金もきりがないのです。それで獲りつかれて身を持ち崩す人もいます。これからご紹介している物は、ミルクホールが認定する珍品達です。

私たちがミルクホールの調度品や蚤の市の商品のために大正時代の物を中心に品物を集めて行く中で出会った、不思議な物、素敵で珍しい物です。



夢二のライバル? 第1回は、上の絵葉書です。随分沢山ありました。哀愁ある大正時代を思わせる絵柄です。日本の浮世絵と西洋のモダニズムが絵の中で解け合っています。夢二の絵に共通する雰囲気ですが、また彼ははっきりした作風を持っていて、主に悲しむ女と教会が題材になっています。特に教会を題材にした絵は独特で、異国の教会を見つけたかイメージしたのかと思われる絵が多くあり、キリスト像、十字架に祈る女、作者の信仰の現われでしょうか? それとも注文を受けて描いたのでしょうか? この時代に外国を廻ったのでしょうか。裏面には、『きかは便郵』とあり、また『製屋井らくさ極京都京』の銘が入っています。聞くところによれば京都の京極、さくら井屋というは大正時代の有名な版元だったらしく、とすると作家は夢二のライバルだったかもしれません。調べればこの作者の色々な人生が見えてくるかもしれません。でも、その前にこの何枚かの絵から見知らぬ世界を旅してみませんか? 一枚の絵から不思議な想像の世界が広がっていきます。それが珍品の楽しさです。

シュガーの姿が見えない! 現場の親方風の人に聞いてみると、その猫ならその辺にうずくまっていたという。見つけたら届けてあげるよと親切に言ってくれたが、翌日猫は自分で家の裏口の処に来て座り込んでいた。しばらくは猫も居づらかったろうか。好き嫌いすると嫌なら和田さんちにに行けばいいだろうと総攻撃を受けた。あれ以来医者はやめだし、肉食主義も葉草風呂もしなかったけれど、いつのまにかすっかりアレルギーが治り、元の毛並みを取り戻し、相変わらず通り掛かりの人に可愛がられて暮らしていたが、前回お話ししたように去年の秋口一度死に掛けた時はもうだめかと思っただけ、あつという間に回復し前よりずっと元気そうになっていた。この分ならまだ2~3年は生きるだろうと決めていた。あの私が出かけた日、急に調子が悪くなったそうで3~4日して帰ってみると苦しうに喘いでいた。部屋にベッドを作ってやったら丸2日間寝続け、1日目はもらい泣きするほど苦しうだった。最後は眠るように静かに息を引き取っていた。バアちゃんの言っていた、猫は死ぬ前に体がべたつくというのは嘘だった。毛並みも綺麗で、寝ているような死に顔に、また涙が出た。

勝手なようだけれど天国からもミルクホールを見守ってねと声を掛けた。お骨は、長谷の光則寺に入る。お寺に行くなら戒名も必要だろう。

牛乳館御守大姉 俗名シュガー 享年約16歳 合掌



MEMORIAL

これは訃報である。

ミルクホールタイムス44thでお話した猫の話をご記憶でしょうか。ミルクホールの主とも言うべき猫の事である。とうとう、終に死んでしまった。推定 歳にて、ミルクホールにもらわれてきた出生不明の猫は『シュガー』と名づけられ、約15年の間、時には可愛がられ、時に調子に乗り、時に邪険にされつつ16年の、猫としては長き生涯を閉じた。

意味もなくニャアニャア鳴き、好き嫌いをし、2~3度ほど家出をし、しゃあしゃあと近所の家で安楽に暮らし、我々に恥ずかしい思いをさせた事もある。どの家でもなぜかシュガーちゃんと呼ばれていた。飽きて家に戻って来るたび飼い主達は『うちのシュガーちゃんを、知りませんか?』と探しにきた。我々は激怒した。うちのシュガーちゃんとは何だ! でも、迷惑も掛け飯も食べさせてもらっている手前大きな事は言えなかったから心の中に止めて、なんとなく笑った。思えば若い頃は、猫らしく遊びまわっていたけれど、そのうち寝る事が多くなってきた。5~6年前からアレルギー性の皮膚炎にかかりだんだんみずばらしくなり、あまり苦しうなので医者に見せたら、何と、肉食主義に切り替えて食餌療法をしろという。

まさか猫に肉食主義が?とは思ったが、一様試してみた。葉草風呂も。猫は断固拒否した。そして最後の家出。3軒先の和田さんちの猫となり、半年帰らなかった。シュガーは近所の飼い猫として時々、塀の上から私ににゃあんと鳴いてきた。そうやって暮らすが良い、と心の中で思った。和田さんの奥さんの話によるとシュガーちゃんはご主人のお気に入り、好きなかつをぶしや、ツナ缶を食べて暮らしているそうだった。その和田さん夫婦も半年後引越す事になった。東京の息子夫婦の家にいく事になったので、とてもシュガーを連れて行けないから、よろしく願いますとある晩挨拶にみえた。

『連れて行く? お願いします?』え? でも顔ではなんとなく笑った。あんなバカ猫は放って置くつもりだったが、驚いた事にその晩の翌朝早く、家の解体が始まりあつという間もなくその古い家はなくなってしまったのである。